

# ドイツの仏教施設から見る海外布教について

斎藤 明寛

## ・はじめに

今回の滞在を通して、私がレポートとして作成したかったテーマはドイツ国内における宗教観であり、特に仏教に対してのイメージを知ることができればと考えた。プログラムに仏教センター見学などを加えていただいたおかげで、現地の方の仏教に関する意見や考え方などの生の声を聞いたことは仏教者としてとてもありがたい経験になった。それらの経験から学んだことをレポートとして記述していく。

## ・ドイツ国内の宗教事情

まずドイツ国内においての宗教の大きな内訳は、以下の通りである。

宗教	人数	割合
キリスト教	5100万人	62.8%
イスラム教	400万人	5%
仏教	25万人	0.3%
ユダヤ教	20万人	0.3%
ヒンズー教	9万人	0.1%
少数派教団	5万人	0.1%
無宗教	2500万人	31.4%

ドイツ国民の大多数がキリスト教徒であり、そのうちカトリックとプロテスタント、ドイツ福音主義教会（EKD）という宗派が存在する。現地の方に尋ねると、地域差があるそうだが無宗教者は、旧東ドイツや比較的大都市に集まっているようだ。仏教信者は25万人と全体の1%にも満たない、ア

ウクスブルクでも仏教センター以外に、正宝寺という臨済宗の寺院の存在が確認できたが、残念ながらコンタクトが取れず、訪問することは叶わなかった。仏教センターの僧侶に尋ねてみると、ドイツに普及している仏教のほとんどが、禅宗であるという。

大半がキリスト教徒であるが、ドイツにはいわゆる「国教」というものがないらしく、宗教に対してある程度の寛容性がうかがえる。ゼクト（カルト）教団という独自の新興宗教団体が増加しているという点からもそれが見て取れる。ドイツは16の州がそれぞれ強い権力を持っていて、各々の州にあった州法のようなものを確立している。いわゆる地方分権である。欧州全体を見てもドイツは特に地方分権が進歩していることがわかる。したがって、各々の州ごとに、ゼクトを管理するための政策（予防啓発やゼクト脱退者保護）があるようだが、今までに禁止になったゼクト教団はないそう。

## ・仏教普及に対する疑問

アウクスブルクを訪問して、現地の仏教に触れて、抱いた疑問点は、浸透している仏教のほとんどが禅宗であるという点である。私自身が持つ海外渡航経験の限りでも、禅宗の寺院は数多く建立されていた印象を受けた。ではなぜ数多くある仏教諸宗の中でも禅宗が好まれるのだろうか。

アウクスブルクで訪問した仏教センター

「Bodhidharma Zendo Augsburg」のリーダーである僧侶抱源さんは、「禅宗で行われる座禅という行為が、瞑想としてとてもわかりやすく、なおかつ実践しやすいからではないだろうか」と言っていた。また、彼のクラスに入る生徒の多くが、何かしらの神的存在を信仰したり、信心したりするよりも、自分自身を見つめる事を重視しているそうだ。仏教諸宗の中でその機会があるのが禅宗の座禅という訳である。

## Bodhidharma Zendo Augsburg Zen in Augsburg での体験

実際に私自身がアウクスブルクの仏教センターで体験した内容を記述していく。現地で行った禅の動作を列挙すると以下の通りである。



入り口表札写真

### -更衣室で専用のウェアに着替え



更衣室

全員黒で統一した専用のウェアのような服装に着替えていた。私服で来て、ここで着替えて座禅を行い、また着替えて帰るといふ、日本のトレーニングジムのような感覚だ。

### -別室にある禅堂に移動後、着席



禅堂として使うフロア

禅堂と言っても、日本のように畳があるわけではなく、フローリングの一部の壁沿いにマットが敷かれており、そこを一人用の席にして座禅を行う。全員がクッションを座椅子のように使っていたがおそらく

坐蒲<sup>ざぶ</sup><sup>1</sup>の代わりのようなものだろう。

#### -導師の合図で行を開始



日本から取り寄せたという木魚



座禅前の茶

座禅の前に全員に一杯のお茶が入れられ、それを飲み干した後に、導師である僧侶が合図をして、読経が始まる。座禅をして終わりかと思いきや、各々がお経本を手に、木魚に合わせて読経を行うのである。経本に記載されているお経は摩訶般若波羅蜜多心經<sup>まかほんにゃはらみったしんぎょう</sup>と妙法蓮華經<sup>みょうほうれんげきょう</sup>の觀世音菩薩普門品<sup>くわんぜおんぼさつふもんほん</sup>ある。お経本は全てローマ字で書かれており、読みやすくしたものであった。

<sup>1</sup> 座禅の際に使用する専用座布団の名称

#### -読経の後に座禅開始



座禅中

読経が終わると導師の合図とともに座禅が始まる。日本でイメージするような警策で叩くということはなく、瞑想に没頭しているといった感覚だ。約30分間瞑想を続けた後に一度立ち上がり、フロアの中心を輪になって歩く、座禅で言うところのいわゆる<sup>きんひん</sup>経行を行うのだ。その後さらに30分ほど同じように瞑想をして終了する。

現地で行った座禅の流れは以上であるが細かな作法はともかくとして、参加者全員がとても真剣に取り組んでいたのがとても印象的だった。また、終了後も満足気だったのがとても目立った。おそらくこのポイントが、禅宗が海外で選ばれる一つの要因ではないだろうか。ここまで分かりやすく修行の実感が得られる修行という点で禅宗の座禅は、私見の限りには他に類を見ない。つまり、導入が優しく、なおかつ継続しやすく、満足感や充実感が得られる為、仏教の中でも禅宗が海外で普及しやすい理由ではないだろうか。座禅終了後に、メンバーの方々に仏教のイメージについて伺ってみたが、大多数が、仏教に対して平和的な印象をお持ちだった。

もう一つの関連として感じたことは、推

測の域を出るものではないが、Zen in Augsburg のメンバーのほとんどが座禅を行う前からの親日家でなおかつアニメや侍好きが多かった点である。昨今のジャパニメーションの海外での人気や、侍や武士道精神など日本文化人気、仏教や座禅に興味を持ってもらうことに一役買っているのではないだろうか。



メンバー全員と共に

### まとめ-法華宗を海外で布教するには

現在私が所属している、法華宗本門流は海外に2ヶ寺の末寺を擁しているが、他宗と比較しても数は少ない。今後の海外布教をするにはどうすればいいのだろうか。今回の経験で少し理解できた点があったので記述する。

海外で布教するには、前述した通り、修行の作法などに以下のポイントがあると普及しやすいのではないだろうか。

#### **修行は言語を介さず、理解しやすい。**

日本語でも理解が難しい教学よりも、目で見て理解できて、なおかつ興味を引く座禅のような修行方法があると、日本語がわからない外国の人々に対する布教の導入に

は適している。

#### **費用が安く場所を選ばない。**

場所を選ばず自宅でも手軽に実践可能で、費用も安ければその分布教できる人の幅が広がる。

法華宗では座禅は行わないが、法華宗を始めとする日蓮門下は「南無妙法蓮華經」(題目)を唱えることに修行の重きを置いているところが多い。法華宗でも修行の一つとして、ただ一心に題目を唱え続ける行「唱題行」というものがある。この修行は座禅のように静かに行うものではないが、自らを見つめ無心になる、または何か一つの事に対してひたすら想うという点では通じるものがあるのではないだろうか。

### 終わりに

今回の経験を活用する一つのパターンとして、今後法華宗が海外の方を含む様々な方に布教する際の、また海外の方に広く仏教を知ってもらうための一助となるように今後も精進を続けていきたいと思えます。また、今回この機会を与えて下さった尼崎市に、僧侶という立場から何かしらの形で恩返しができるかと考えています。素晴らしい経験をさせていただき、ありがとうございました。